



中国ブロック



発行人：田妻 進

〒734-8551

広島県広島市南区霞 1-2-3

広島大学病院 総合内科・総合診療科

Tel&Fax：081-82-257-5461

ニュースレター No.15 (2017.06)

【中国ブロック支部活動報告】

<<第5回日本プライマリ・ケア連合学会中国ブロック支部学術集会の開催報告>>

2017年3月11日(土)、12日(日)に島根県出雲市の島根大学医学部附属病院において第5回日本プライマリ・ケア連合学会中国ブロック支部学術集会を開催しました。

中国ブロックでは、これまで専攻医のポートフォリオ発表を中心とした会を開催してきましたが、学術的な取り組みも取り入れながら、よりこの会を発展させていきたいという意味も含めて、ポートフォリオ発表会から中国ブロック支部学術集会という名称に変わりました。

内容はこれまでのように専攻医の成長をより促進することを主目的として、1日目はポートフォリオ発表会とし、2日目は専攻医対象と指導医対象の2つのセミナーを開催しました。初日のポートフォリオ発表会には、61名の参加者があり、中国ブロックに所属する専攻医17名からの発表がありました。ここ数年のポートフォリオ発表会の傾向でもある発表数の増加と発表内容の質の良さに加えて、今回はさらにポートフォリオのテーマについてもバリエーションが豊富(家族志向型ケア、統合的ケア、コミュニケーション、プロフェッショナリズム、施設管理・運営、教育、研究、メンタルヘルス、リハビリテーション、終末期、女性・男性の健康問題)であり、ポートフォリオ発表会の成長を感じました。

2日目は、専攻医向けと指導医向けの2つのセミナーで合計36名の参加がありました。専攻医向けのセミナーは、浜田市国保診療所連合体あさひ診療所の佐藤誠先生から家庭医療後期研修のコアのひとつである「行動変容」をテーマとしたワークショップと神経内科専門医の大田シルバークリニックの岡田和悟先生から「総合診療医のためのパーキンソン病の診かた」に関するレクチャーでした。時間が足りなくなるほど活発な議論があり、またレクチャー時間終了後にも多くの質問が続き、充実したセミナーであったとともに受講者の興味・関心も非常に高かったことが伺えました。指導医向けのセミナーでは、中国ブロックの指導医の力を集結した「ポートフォリオ指導講座」が開かれました。前半は「ケースで学ぶ指導のポイント編」、後半は「有名指導医に学ぶノウハウ編」と大変興味深く、そして役に立つ内容となっており、出雲家庭医療学センター大曲診療所の藤原和成先生、岡山家庭医療センター湯郷ファミリークリニックの玉井友里子先生、鳥取大学医学部地域医療学講座の朴大昊先生が中心となって企画・準備をしてくれ、会場が狭く感じるほど盛り上がっていて、参加者の満足度も非常に高いセミナーであったと感じました。来年度の中国ブロック支部学術集会の開催は岡山県に決まり、来年度も大変楽しみです。



文責：島根大学医学部総合医療学講座 木島庸貴

<中国ブロック支部学術集会プログラム>

1日目 2017年3月11日(土) ポートフォリオ発表会(中国ブロック支部内の専攻医)ならびに懇親会

2日目 2017年3月12日(日) (1)専攻医向けセミナーおよび(2)指導医向けセミナー

(1)a 行動変容の基礎と実践(佐藤誠先生)、(1)b 総合診療医のためのパーキンソン病の診かた(岡田和悟先生)

(2)a ポートフォリオ指導講座 ケースで学ぶ指導のポイント編(藤原和成先生、玉井友里子先生、朴大昊先生)

(2)b ポートフォリオ指導講座 有名指導医に学ぶノウハウ編(藤原和成先生、横林賢一先生、松下明先生など)

<<日本プライマリ・ケア連合学会 中国ブロック支部 第5回代議員会総会議事録>>

日時：平成29年3月11日(土) 13:00~13:50 場所：島根大学病院みらい棟2階

出席：出席者21人、委任状(支部長に一任)：20人

<報告と協議事項>

#1 会計報告(松下) 平成27年度収支報告 大門先生により監査 代議員総会で承認
平成28年度収支報告(中間報告)

2 役員の決定

支部長 田妻進 副支部長 松下明 会計 松下明兼任 継続

監事 齋藤裕之 (代議員総会で承認)

幹事 鳥取県、島根県から1人ずつ選出 (時期は5月総会まで) 鳥取県支部長: 浜田紀宏 (鳥取大学)、島根県支部長: 木島庸貴 (島根大学)

3 県支部活動の現況:

山口: できている 広島: 規約ができている。県医師会と調整中 (田妻)。
岡山: 既存の組織と連携ができていない (松下)。 島根: 既存の組織と連携ができていない (木島)。
鳥取: 進んでいない。これから構築する予定である (浜田)。

4 中国ブロック支部規約改定

・第3条の修正案で賛成多数承認: 修正案 (事務所は支部長の定めた場所 今は広島大学病院)。

5 中国ブロック支部ホームページの作成: 役員会にて担当者を決める。

6 支部学術総会のあり方について

・開催回数について

- ・ポर्टフォリオ発表会以外の研究発表の場を設けることも大切 (田妻)。
- ・年2回はなかなか集まれないだろうという議論が過去にあった (松下)。
- ・議論を踏まえて、開催は1回 ポートフォリオ発表会は継続する (賛成多数承認)。
- ・今後の開催予定: 平成29度は岡山、平成30年度は鳥取で開催予定となった (承認)。

原則: 岡山・広島 と 山口、島根、鳥取の3県から交互に。

7 代議員会の日時: 次回は、代議案総会を土曜日夕方に開催することも検討する。

8 ブロック支部合同オリエンテーションの開催について

平成29年4月2日に岡山で行う予定の研修医会を、中国ブロック支部合同オリエンテーションとする

文責: 溝岡雅文

<<中国ブロックでの指導医養成コースの報告>>

松坂内科医院・岡山家庭医療センター奈義ファミリークリニック 松坂英樹
岡山家庭医療センター奈義ファミリークリニック 松下明

2016年度の中国ブロック支部の指導医養成コースである m-HANDS-FDF (modified - Home and Away Nine DayS - Faculty Development Fellowship) の第4回を2017年1月28日~29日に岡山市民病院で開催しました。JPCA-MLなどで募集し中国地方の指導医6名がコースに参加しています (指導スタッフは上記の松坂・松下に加え、出雲家庭医療学センター: 藤原和成先生)。

以下にコースの概要とフェローからの報告の一部を掲載しますのでご一読ください。

<戦略論>

餃子屋と高級フレンチどちらが儲かるかという話から始まり、その話から限界利益率とBEPについて学んだ。これは経営をするものにとって極めて重要な知識であると思う。さらに弱者の法則 (1位以外は他と差別化しないといけな差別化戦略、そして局地戦、接近戦、一点集中主義) が重要であることを学んだ。これは、医療経営に限らずいろんなところで生かせることと思う。一方強者の法則であるミート戦略 (差別化しようとするのを打ち消す) も含めて、これらの法則に従っている企業こそが成功に近いことがわかった。その後の仮想シナリオでは、医療における戦略は、逆説的であるが医療以外にも重要であることを学んだ。個人的にも、病院経営にこの戦略論で学んだことは非常に重要なファクターになると思うし、ぜひ活用していきたい。

<模擬ティーチング①>

テーマは態度領域で、問題の多い後期研修医役に学習者がメンターとして対応するロールプレイを行ってもらい、プロフェッショナルリズムの重要性の理解と意識化を目指した。具体的には、最初に概要を説明し、学習者にプロフェッショナルリズムを意識する場面を列挙してもらった。次に、ワークライフバランスを気にしすぎて夕方連絡がつかない、患者・看護師は医師に従うべきだという考えを持っているシナリオに対応し、感想を簡単にシェアした。以上の教育セッションを、プロフェッショナルリズムをロールプレイから学ぶという難しさ、学習者の背景と到達レベルに十分配慮して立案し、実施した。

参加者からは、ロールプレイの方法が斬新で特徴的であった (ソクラテス法的、学習者にマルチタスク、等)、学習者からは、予定調和的なシナリオではなく面白かった、等の好意的な意見がみられた。一方、傍観者になっている学習者へのケアも含めて参加者の役割への配慮、各グループから出た話題をシェア (フィードバック) する時間があるとよかった、等の意見がみられた。学習者数が多かったため、致し方ない部分もあったと考えられた。

<模擬ティーチング②>

目標：介護保険制度の成り立ちと仕組みを理解し主治医意見書作成にあたって「特記事項」欄の記載の重要性を理解してもらう

まず、パワーポイントを用いて介護保険についての講義を行った。その後3グループに分かれて、模擬症例を提示し実際に主治医意見書を作成してもらった。しばらくして、追加情報、家族の問診票も提示し指導医が娘さん役となり、必要な情報を聞き出してもらいながら意見書を完成させてもらった。その上で意見書作成のポイントを解説し、「特記事項」欄の記載の重要性を強調した。ほとんどの学習者が介護保険の知識や主治医意見書を書いたことがあり、最初から作成するのではなく、「特記事項」欄の記載に絞って講義を進めたらさらに良かった。

<指導のビデオレビュー>

m-HANDS を通して、4名の先生の指導風景を拝見してきました。それぞれ先生の特徴が良く出ていたなと思います。まずは、救急研修+救急病棟研修の現場で、生活環境を含め様々な困難な症例に対しての研修医からのプレゼンに対しての振り返りの場面を見せていただきました。学習者の安全に配慮して、カンファレンスルームを準備し、温厚な語り口で、落ち着いた環境での振り返りが良かったなと思います。最後の指導レビューとして、自分自身のビデオを供覧しました。自分の指導風景を客観的に見ることはこれまでなく、ほぼ指導に対する振り返りをいただいたことがなかったので、とても良い経験になりました。声が小さい点や、声をかける時には相手の方をきちんと向くこと、メリハリをつけること、ご指摘をいただいて、気づくことが多かったです。これからも、自分で確認するだけでも、動画の撮影などを行って、客観的な評価を行うことは非常に有効だと感じました。



<卒業制作発表>

『クリニカルクラークシップ（他県の大学からの医学生の学外実習）』について、修正点を討議。

- ・3-4週間の学生実習は入院実習を中心に指導、ポートフォリオ作成。
- ・しっかりスケジュールが練られていたが、学生のニーズとの擦り合わせが必要。
- ・毎日の最後の振り返りが重要。

『認知症サポーターフォローアップ講座』について、修正点を討議。

- ・町の認知症サポーターを他職種の協力で講演会・WCを用いて、教育する。
- ・講義内容は非常に素晴らしいが、講座の後に新たに何を始めるかが重要（認知症見回り隊などの設置等）。
- ・アクションリサーチの手法でアウトカムの検証を経時的に。

『看護専門学校における解剖生理学講義』について、修正点を討議。

- ・看護学生に消化器の解剖生理を14回の講義で指導する。
- ・毎時間後の振り返りの小テストを行い、最後にGWを行い各グループから他のグループに対して研究発表を行ってもらう方略は素晴らしい。
- ・解剖生理の理解に、ネット上の解剖ビデオによるe-learningを活用してもよい。
- ・ポスターツアーを行ってもよいかも。

2016年度の中国ブロック支部の指導医養成コースであるm-HANDS-FDFのポートフォリオ発表会と2015年度フェローの卒業制作その後の発表会を2017年3月12日に島根大学出雲キャンパスで開催しました。

まずは2015年度フェローの卒業制作その後の発表がありました。計画開始当初でつまずいた企画などもありましたが、そのつまずきからもm-HANDS-FDFの学びを生かしての工夫や新しい形での展開などとても示唆に富む時間でした。その後、2016年度フェローがそれぞれの学びをショーケースポートフォリオとして作成したものを、ポスター形式で発表しました。テーマも「初期研修医との関わり」、「Difficult teaching encounter」、「アクティブラーニング」などなど、コースでの学びが凝縮された内容でした。



1年を通してのフェローからの感想も一部紹介させていただきます。

「m-HANDS-FDFに参加して最も良かったのは、何より自分の欠点（特に全てを伝えようとし過ぎる点）をしっかり認識できたことと、自分なりになんとなく出来ていたことを言語化出来たことが最も良かったことである。言語化については、5 micro skills などなんとなくできていたことを型にはめすぎて逆にやりにくさを感じた部分もあったが、人に教育手法を指導する時には、やはりこういった共通言語が必要であると思う。」

「種々の教育理論を学ぶ機会は幾度も受講しましたが、それらを教育実践に活用し、PDCAサイクルを回しながら学習者ならびに学習提供者の生涯学習につながるものはm-HANDS-FDFが初めてでした。種々の学びが得られた理由として、①参加者が自ら取り組んでいる教育カリキュラムが学習教材であったこと、②指導スタッフからの的確なリフレクションが参加者の学びとnext stepにつながったこと、③参加者と昨年度受講したOBの先生方の中で繰り返し交流を深めたことの3点があると考えています。次年度以降も引き続き指導スタッフ、今年度の参加者、OBの皆さんと交流する機会を楽しみにしています。」

【山口県支部会活動報告】

山口県総合診療オリエンテーション

日時：2017年4月8日（土）、9日（日）

〔1日目〕

『総合診療総論』『Curriculum development』 齊藤裕之（山口大学医学部附属病院 総合診療部）、『省察的実践家』中嶋裕（山口県立総合医療センター・へき地医療支援部）、『公益に資する職業規範』佐久間暢夫（萩市国民健康保険 川上診療所）、『診療の場の多様性』松本翔子（出雲家庭医療学センター）、『地域志向のアプローチ』原田昌範（山口県立総合医療センター・へき地医療支援部）、『女性専攻医を指導するにあたり指導医が知っておくこと』黒川典枝（山口大学医学部附属病院 総合診療部）

〔2日目〕

『人間中心の医療・ケア』小早川節（波乗りクリニック）、『包括的統合アプローチ』綿貫篤志（わためきクリニック）、『連携重視のマネジメント』廣田勝弘（生協小野田診療所）、『ポートフォリオ・SEA』松本翔子（出雲家庭医療学センター）、『プリセプティング』森谷浩四郎（宇部興産中央病院 一般内科・総合診療科）、『360° 評価』坂田勇司（宇部協立病院）

例年よりも少し遅めの桜が満開に咲き誇る4月8日、9日の2日間に渡り、念願であった総合診療オリエンテーションが開催されました。今年度からスタートした山口大学総合診療プログラムの専攻医2名を含めた県内各地の専攻医・指導医、隣の広島県からの専攻医の参加もあり、大変賑わいのある会となりました。

この2日間のオリエンテーションは、総合診療の6つのコアコンピテンシーを中心に、与えられたテーマを指導医陣が工夫を凝らして準備してきました。その練りに練られたレクチャーはまさに圧巻であり、実際の経験に裏打ちされた言葉の中に、教科書では語ることのできないエッセンスが散りばめられていました。中でも、ベストプレゼンテーションに選ばれた『人間中心の医療・ケア』のレクチャーでは、実際の困難事例をチェックリストと照らし合わせて振り返り、総合診療医の専門性の理解をより一層深める内容でした。

お忙しい中、時間をかけて直前まで準備して下さった指導医の先生方、会を設営・準備していただいた事務の方、本当にありがとうございました。満開の桜並木のように、総合診療医としての花を咲かす第一歩を踏み出したいと思います。



山口大学総合診療プログラム 下川純希

【案内】

<<2017年度の中国ブロック支部の指導医養成コースの参加者募集案内>>

m-HANDS-FDF (modified - Home and Away Nine DayS - Faculty Development Fellowship)

医学教育を中心に行います。対象になるのは以下の方たちです。

- ・中国ブロックに所属しており、家庭後期研修を修了した医師
- ・中国ブロックの家庭医療後期研修に関わる指導医（卒後年度は問いません）

定員：9名

予定：合計4回のコース：基本的に修了は全参加が最低条件です

第1回 in 出雲 8月26日（土）- 27日（日） 第2回 in 福山 9月30日（土）- 10月1日（日）

第3回 in 山口 11月25日（土）- 26日（日） 第4回 in 岡山 1月20日（土）- 21日（日） 第5回 in 岡山 ポートフォリオ発表会

*事前、事後の課題あり、実践として学習者に対する教育、自身の指導のビデオレビューなどを行います。最後に m-HANDS-FDF に参加しての学びをショーケースポートフォリオにし、ポスター形式で発表してもらいます。

m-HANDS-FDF に参加を希望される方は、下記のアドレスにご連絡をお願いします。

松坂英樹：hdk.matsuzaka@gmail.com お待ちしております！

<日本プライマリ・ケア連合学会広島県支部総会開催のご案内>

日時：2017年10月28日（土） 午後

場所：広島市内を予定 時間、場所などの詳細は次回ニュースレターの案内予定です。